

### 重点3 社会参加の充実

■ 国の「第5次障害者基本計画」では、基本理念として「障害者が、自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加し、その能力を最大限発揮して自己実現できるよう支援する」と定められています。地域共生社会の実現に向けては、障害のある方を、必要な支援を受けながら自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加する主体として捉えることが必要です。

■ 武蔵野市第六期長期計画では、市の目指すべき姿として「誰もが安心して暮らし続けられる魅力と活力があふれるまち」を掲げています。障害者が自分らしく安心して暮らしていくためには、様々な形での社会参加の促進を図ることが大切です。多くの障害のある方が社会参加を果たすことで、地域の障害に関する理解がより一層深まり、支え合いのまちづくりが推進されます。

■ 障害のある方の就労支援については、障害者就労支援センターあいるを中心に、関係機関が連携を図りながら様々な取り組みを進めており、就労移行支援事業所の数も着実に増えています。

一方、実態調査の結果から、精神障害のある方の就労意向は他の障害種別に比べ高いものの、実際の就労につながらないケースが多い状況にあります。

精神障害や発達障害のある方が、短時間就労など多様な働き方を選択できる取組みを推進します。また、市役所庁内での職場実習を引き続き実施するとともに、市内事業所の実習先の確保に向けた取組みを推進します。

■ 精神障害のある方に向けて、アウトリーチ型の支援や年代別のニーズに応じた居場所機能の充実を図ることが必要です。

■ 実態調査結果から、通所後や週末の居場所づくり、余暇活動支援に関するニーズの高さが確認できました。

移動支援や日中一時支援は利用希望の時間帯が重なることが多い一方、支援員の人数には限りがあるため、希望する時間に利用することが難し

い現状があります。事業所の新規開設や支援員の確保に向けた取り組みを行っていきます。

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に掲げられた「レガシー（社会遺産）」のもとに、文化やスポーツを通じた共生社会の実現に向けての取り組みが現在も継続して推進されています。

障害のある方の社会参加や余暇活動という側面でも、多様な活動に参加する機会の確保することが重要です。文化やスポーツを所管する他部署との連携や関係機関との情報共有などを行いながら、合理的配慮の提供とそのための環境整備に留意して、誰もが文化やスポーツを楽しめるような環境づくりを進めていきます。